

ヤマザキ動物専門学校
学校関係者評価委員会 報告書

平成 30 年 6 月 20 日

1.日時 平成30年6月20日(水) 15:00~16:30

2.場所 ヤマザキ動物専門学校 本校舎 151教室

3.出席者

(1)学校関係者評価委員 任期は何れの委員も1年

島津 裕美 (環境省自然環境局総務課動物愛護管理室 当該分野専門家)

吉田 雅子 (ヤマザキカレッジ 卒業生)

大澤 忠廣 (公益財団法人日本高等教育評価機構 学校評価専門家)、委員長

千葉 辰男 (千葉・小坂会計事務所 学校運営専門家)

杉浦 雅子 (ヤマザキ動物専門学校 保護者)

(2)専門学校出席者

井上 留美 (ヤマザキ動物専門学校 副校長)

古山 泰二 (ヤマザキ動物専門学校 事務局長)

吉田 充 (ヤマザキ動物専門学校 事務部長)

佐藤 恵子 (ヤマザキ動物専門学校 事務部副部長)、書記

岡田 智栄 (ヤマザキ動物専門学校 事務部教務課長)

4.議事概要

(1)配布資料についての説明

副校長から開会の挨拶があり、事務局長から配布資料の説明がなされた。

『平成29年度ヤマザキ動物専門学校自己点検・自己評価表について』

- ・本年度は動物看護師統一認定機構の自己点検評価表を用い、自己点検を行った。
- ・評価の基準は動物看護師養成教育評価 自己点検・評価 手引書を用いた。
- ・自己点検・自己評価表に関して公開していく。

(2)自己点検・評価表についての意見交換

事務局長より、各項目についての問題個所や改善点をあげていった。

『昨年度の改善点について』

委員より、昨年度の自己点検での改善個所はどのようになったか、質問があり、事務局長より、まだ改善個所についての結果はまとめていないが、昨年度より各種委員会の体制を整え、定期的開催し、学校関係者評価で頂いた意見は、その中で改善個所については検討している。今後、自己点検・評価委員会でも見直しを行い、まとめていく必要があると回答した。

『評価の基準について』

委員より、昨年度よりも評価が下がっている点について質問があり、事務局長より、今年度は厳しく評価する方針で行ったと回答した。1が付いている項目は新規の項目になるので、今後、改善していくと説明があった。

委員より、評価の基準について、以下の提案があった。

- ・自己点検評価活用は学校運営向上のために活用するものである。
- ・そのための方策として、

- ①自己点検評価の評価基準を明確かつ分かりやすくする。
- ②理事等の助言を得、理解を求める。
- ③活動を全スタッフ及び必要な項目については学生の理解と協力を得る。
- ④あまり時間をかけない。すなわち点検評価をしやすくする。そのために、各評価で評価項目の詳細な設定（各年度で見直し等の検討）
- ⑤困難な項目についてはハードルを下げる。

- ・評価の基準について、現状曖昧な印象を受けるので、明確にする。

(案)

評価1：まったく検討していない、マニュアルもない

評価2：検討を行い、議事録・マニュアル等を作成

実施体制についても検討し、一部実施

評価3：2に基づき実施、成果については検証中

3-C 実施し、問題点等を把握改善中

3-B 通常の中ではほぼ問題なく実施

3-A イレギュラーな事象等を一つ一つ検討・改善

評価4：ほぼ完全な形で対応。状況等の変化の場合、改正

- ・実地目標について

初期：評価1を無くす

中期：全ての項目について評価3-C以上の評価になるよう努力する

- ・評価についての検討等

①4月：評価及び問題点の把握、現状のランク又は一つ上のランクまで

②5月まで：実施改善についての検討

③12月頃：実施状況の検証

④翌年4月：①の改善についての達成度についての検討（評価）

- ・自己点検評価表の作成

自己点検評価を行うにあたっての具体的な項目・内容

各評価（2、3-C、3-B、3-A、4）ごとに

現状評価よりワンランク上のもの以下についてとりあえず作成。

当初は完全でなくても徐々に内容を充実させていく。

一項目ごとに作成

作成者：各担当部門

検証者：自己点検評価委員会で検証

作成内容 ①点検項目 ②評価（○△×）③コメント ④評価にあたっての資料

メリット 各担当者が自己の業務について検証と見直し等の問題意識がもてると思われる

注意点 評価の向上を第一義的に考えない、重要なことはたえなる業務の改善

業務の改善の効果が重要

形式的にならない

《案》

項目別点検評価表

8-2 予算・収支計画所は有効かつ妥当なものとなっているか

統括責任者	責任者	担当者
●●	▲▲	■
評価委員		
◆◆		

平成 28 年度評価 4

平成 29 年度評価 3 (3B)

コメント 平成 29 年度は点検項目を詳細に検証した結果、更に改善する必要があるとあり、評価 3 とした。
平成 30 年度は予算実績差異についての分析と、制度の検証等を文書化して行きたい。

評価	点検項目	評価	資料	点検者
評価 2	1 収支計画が作成されているか	○	8-2-1	■
	2 予算制度があるか	○	8-2-2	■
	3 収支計画・予算等が理事会等の承認を得ているか	○	8-2-3	■
評価 3C	11 予算は、収支計画・事業計画に基づき作成されているか	○	8-2-11	■
	12 予算の作成に当たり、各担当等の連携をとっているか	○	8-2-12	■
			-	
評価 3B	21 決算が予算の範囲または、それに近似しているか	○	8-2-21	■
	22 予算が不足した場合、適性に補正予算が組まれているか	○	8-2-22	■
	23 予算と決算額に大きな差異があった場合、分析がなされている場合、その理由等が報告されているか			
	24 収支計画・予算制度の執行等の運用について検証し、文書によって報告・保存されているか			

点検項目については随時検討していく。これによって学校運営の改善に役立てる。

『施設・設備等の改善について』

委員より、施設・設備の修繕等は大規模な計画になるのが予測できるが、どのようにするのかと質問があり、事務局長より、中長期構想委員会にて計画書を作成し、法人と相談して計画していきたいと回答した。本校舎は竣工より 18 年が経過し、修繕内容によっては一度に行った方が良いものもあるので、計画的に行っていききたいと説明があった。委員より学生の授業スケジュール等も考慮して工事等行って欲しいとの要望があった。

『保護者との連携について』

委員より、保護者への情報共有の手段と、災害時の連絡方法はどのようにしているのか質問があった。副校長より、保護者への連絡は学年便りを通じて年 2 回行っており、災害時については直接学生へ電話連絡を行っている。今後は、保護者向けにホームページで行事の様子の掲載を充実させ、災害時ではメールでの連絡手段を検討するなど、他の形での情報発信についても検討を始めることと回答した。委員からホームページ等でもっと学生生活についての情報発信をして欲しいとの要望があった。

最後に事務部長より今回の会議についての意義と委員に対して謝意が述べられ閉会した。

以上
記録/事務局 佐藤恵子